



# 会津果樹情報 7月号



☆梅雨明け後、高温が予想されます☆  
☆高温・乾燥対策（かん水、病虫害防除）を万全に！☆

令和6年7月23日  
福島県会津農林事務所 農業振興普及部  
(TEL 0242-29-5307)  
JA会津よつば あいづ西部営農経済センター

## 1 気象予報

東北地方の1か月予報(7/20～8/19)によると、暖かい空気に覆われやすいため、向こう1か月の気温は高いでしょう。降水量は平年並みとなる見込みです。

## 2 生育概況(7/16現在、会津若松市)

表1 各樹種の果実肥大状況(7月16日調査、暦日比較、平年は1986～2023年の平均)

樹種	りんご		かき	
品種	ふじ		会津身不知	
調査地点	会津若松市北会津町		会津若松市門田町	
分類	縦径	横径	縦径	横径
果実径(mm)	55	60	34	48
平年比(%)	115	115	139	156

### (1) りんご

#### ア 果実品質

果実肥大は、暦日比・生育日数比ともに平年より大きく推移しています(表1)。なお、着果量は十分確保(中心果結実率:54%)されています。

#### イ リンゴハダニ

北会津町のは場において、雌成虫が1葉あたり1頭程度発生しており、要防除水準に達しています。梅雨明け後、ハダニの頭数が増加することが予想されます。

#### ウ 黒星病

7月上旬頃の調査時では、普及部管内の10ほ場のうち2ほ場で少発生しており、発生ほ場割合は、平年並みです。展葉1週間後頃から落花20日後頃に、薬剤散布できなかった園地で、発生が見られます。

### (2) かき

#### ア 果実品質

果実肥大は、暦日比・生育日数比ともに平年より大きく推移しています(表1)。

#### イ 生理落果

6～7月上旬の降水量が平年より多かったことから、樹勢が極端に強い園地では生理落果が発生しました。

### (3) もも

#### ア 果実品質

6月以降(硬核期～果実肥大期)にまとまった降雨があったため裂果(図1)

が多く、早生品種では糖度がやや低めです。

#### イ せん孔細菌病

3年前にせん孔細菌病が多発した園地において、発生は少ない状況です（夏型枝病斑は1樹あたり2本程度）。

#### ウ クワオオハダニ

梅雨明け後の高温・乾燥により、増殖しています。ダニ剤を使用する際は、収穫前日数に注意しましょう。

### (4) ぶどう

#### ア 高温障害

7月中旬以降の高温・強日射によりハウス・露地において、果実の高温障害(図2)が発生しました。

#### イ 黒とう病

最重要防除時期である生育初期(4~5月)の発生を抑えられなかった園地では、果実感染も見られます。



図1 裂果  
(R6. 7/16 撮影  
あかつき)



図2 高温障害  
(R5. 7/18 撮影)

## 3 今後の栽培管理

### (1) 樹種共通

#### ア かん水

通常は5~7日間隔で10aあたり20~30tかん水を実施しますが、乾燥が続く場合は、1回あたりのかん水量を調整し、かん水間隔を短くしましょう。

※収穫前の果実では収穫5~7日前のかん水は控えてください(糖度が低下するため)。

#### イ 草刈り・マルチ

草生園においては樹と草との水分競合を防ぐため、草刈りを行いましょ。

また、刈り草や稲わらのマルチを行い、土壌水分の保持に努めましょ。

※地表面からの蒸発散量は、刈り草をマルチした場合、草刈りしない場合の約半分となります。

#### ウ 病虫害防除

収穫前日数には特に注意し、使用濃度や使用回数等の農薬使用基準を十分に確認し、間隔が空きすぎないように注意して使用ましょ。

### (2) リンゴ

#### ア 晩生品種の仕上げ摘果

リンゴ(ふじ)では花芽分化期にあります。仕上げ摘果が遅れると養分の競合から翌年に充実した花芽を確保できない恐れがありますので、仕上げ摘果が終わっていない園地では迅速に実施してください。

#### イ 早生品種の収穫前管理

平年よりも気温の高い日が続いているため、日焼け果の発生が確認されています。葉摘みは、日焼け果の発生状態を確認しながら数回に分けて行いましょ。

#### ウ ハダニ類

梅雨明け後、高温乾燥が続く場合は多発する恐れがあります。なお、ダニ剤の散布

は、効果を高めるために草刈り後に実施しましょう。

## エ 黒星病

二次伝染を防ぐため、摘果で罹病果を除去し、感染拡大を防止しましょう。

### (3) カキ

#### ア 新梢管理

昨年凍霜害が発生した園地では、新梢の発生が多くなります。7～9月にかけて3回程度に分けて新梢管理を実施してください(一度にせん除すると日焼けや枝の二次伸長を招く恐れがあるので注意してください)。

#### イ 着果管理

小果、傷果、奇形果等を中心に摘果を実施しましょう。

### (4) モモ

#### ア 収穫前管理(晩生種)

今年のこれまでの品種の収穫期は、平年よりやや早くなっており、晩生種の収穫期も平年より早まることが予想されます。

修正摘果を実施するとともに、夏季せん定や支柱立て、枝吊り、反射シートの設置などを計画的に実施しましょう。

#### イ せん孔細菌病

降雨により感染が拡大しやすくなります。被害枝・葉・果実は見つけ次第速やかに除去して適切に処分しましょう。

越冬伝染源の密度を低くするため、秋期防除(銅剤)は3回、確実に実施しましょう。

### (5) ブドウ

#### ア カサ掛け(図3)

果房の日焼け防止に効果がありますので、袋掛けと一緒に実施すると良いでしょう。

※カサ掛けをすることで果面温度が3～5℃低下します。

#### イ 袋掛け

袋掛けの時期の目安は「摘粒後すぐ」ですが、日中の温度が30℃を越えるような場合は、ベレーゾン期(果肉が柔らかくなる時期:シャインマスカットの露地栽培であれば、7月下旬)以降に行ってください。



図3 カサ掛け

○令和6年度農油危害防止運動展開中(6/10~9/10)!

○農業災害に備え、農業保険(農業共済・収入保険)に加入しましょう!

○会津若松市でクマの目撃が相次いでいます。朝夕、1人で園地に行かないようにしましょう!

○収穫残渣は、クマが電気柵内に入ろうとするきっかけになります!

園地に放置せず、適正に処理(一か所に集めて埋める、柵で囲う等)しましょう!

